

令和 7 年度和歌山市文化賞

た だ か よ こ 多 田 佳 屯 子

住 所 和歌山市
出 身 地 和歌山市
生 年 昭和 14 年
声楽家・演出家



◎業績及び経歴

武蔵野音楽大学短期大学部声楽科を卒業。卒業後 5 年間マスネヴァ・ブレンチコバ氏に師事。昭和 37 年から音楽活動を本格的に開始し、音楽教員として後進の育成・指導にあたる。

「和歌山市民オペラ協会」の前身である「和歌山声楽研究会」を昭和 39 年に立ち上げ、以来、ソリストとして出演するほか、プロデューサー、ディレクター、指導者として、本市に本格的なオペラを根付かせる活動を 60 年にわたり行い、本市の舞台芸術の先駆者として現在も第一線で活躍している。これまでに多岐にわたる作品を上演し、子ども向けオペラも手掛けるなど、幅広い層に向けた文化活動を展開している。

氏は、平成 14 年度文化庁芸術団体重点支援事業として東京室内歌劇場と連携し行われたオペラ「虎月傳」にて主役を演じ好評を博した。また、新作オペラでは、道成寺を舞台とする安珍・清姫の伝説など和歌山にゆかりのある人物や物語にスポットを当てた作品で演出家としての力を遺憾なく発揮している。特に広川町出身の政治家・実業家である浜口梧陵を題材とした作品は、令和 4 年に「第 20 回佐川吉男音楽賞」を受賞し、地域を超えて高く評価された。

こうした活動の傍ら、音楽療法を活用したボランティア活動や市民を対象とする音楽教室として本市コミュニティセンターで開講している「唱歌の学校」、リビングカルチャー倶楽部で開講している「～歌の花束～ 多田佳屯子と歌おう」では講師、ボイストレーナーを務め、子どもを対象としたオペラの体験教室を開催するなど音楽を通じて地域に大きく貢献している。

氏の長年にわたる音楽活動、後進の育成は、オペラの普及と本市の音楽文化の向上・発展に大きな役割を果たしており、その功績は極めて顕著である。

■現在

- ・和歌山市民オペラ協会会長
- ・和歌山文化協会洋楽部長
- ・公益財団法人日本演奏連盟会員
- ・和歌山音楽療法研究会理事長
- ・全日本オペラネットワーク運営委員

■主な受賞

平成 24 年	平成 24 年度和歌山県社会福祉 功労者表彰
同 29 年	和歌山県知事表彰
同 30 年	平成 30 年度和歌山市文化功労賞
令和 3 年	令和 3 年度和歌山県文化功労賞
同 6 年	令和 6 年度地域文化功労者表彰

令和7年度和歌山市文化功労賞

こにし かつゆき
小西 克幸

住 所 東京都
出 身 地 和歌山市
生 年 昭和48年
声優



◎業績及び経歴

高校で映画研究会に所属し、その後、勝田声優学院に11期生として入学。同学院卒業後、野村道子氏、野沢那智氏、内海賢二氏が講師を務める養成所に1期生として入所し、翌年、野村道子氏に誘われ賢プロダクションに所属する。

平成8年のデビュー以来、「シャーマンキング」（阿弥陀丸役）、「テイルズ オブ シンフォニア」（ロイド・アーヴィング役）、「ジョジョの奇妙な冒険 Part5 黄金の風」（ディアボロ役）などの代表作や、本市の友ヶ島を舞台としたアニメ「サマータイムレンダ」（雁切真砂人役）など、アニメ、ゲーム、映画（吹き替え）、ナレーションといった、主役・メインキャラクターをはじめ、多岐にわたる作品に出演している。特に近年では、社会現象となった「鬼滅の刃」において宇髄天元役を演じ、国民的な認知度を獲得している。

氏の功績は業界内でも高く評価され、第9回声優アワード助演男優賞を受賞するなど熱血系からクールな役柄まで変幻自在に演じ分ける実力派として、その幅広い演技力が認められている。

現在も第一線で活動し、29年以上にわたる継続的な活動を通じてアニメ・ゲーム文化の普及と発展に重要な役割を果たしており、この分野における顕著な功績は、高く評価されるものである。

■現在

株式会社 賢プロダクション

■主な受賞歴

平成26年 第9回声優アワード助演男優賞

■主な出演作品 【】内は作品名

平成15年	【テイルズ オブ シンフォニア】 ロイド・アーヴィング 役
平成30年-令和4年	【ゴールデンカムイ】 鯉登音之進 役
令和元年	【ジョジョの奇妙な冒険 Part5 黄金の風】ディアボロ 役
令和元年-令和7年 令和4年	【鬼滅の刃】宇髄天元 役 【サマータイムレンダ】 雁切真砂人 役
令和5年-令和7年 令和6年 令和6年-令和7年	【薬屋のひとりごと】高順 役 【キン肉マン】ロビンマスク 役 【チ。―地球の運動について―】 オクジー 役

令和 7 年度和歌山市文化功労賞

ほりもと ゆうき
堀本 裕樹

住 所 神奈川県
出 身 地 和歌山市
生 年 昭和 49 年
俳人



◎業績及び経歴

國學院大学在学中に鎌田東二師範の「國學院俳句」に入会し、19 歳から俳句を始める。出版社勤務、コピーライターを経て、角川春樹主宰の俳句結社「河」に入会。3 年間編集長を務める。

平成 22 年に独立した後は、創作活動と並行して、老若男女幅広い層へ俳句の豊かさや楽しさを伝えるため、「いるか句会」の主宰や、池袋コミュニティ・カレッジや角川庭園俳句講座で講師を務める。さらには平成 28 年度、令和元年度、令和 4 年度には NHK 俳句の選者を務めた。

また、大学での授業やゲストを招いて行う句会ライブ「HaikuBar」の開催、文筆家や芥川賞作家、ゲーム作家とともに登壇する公開句会「東京マッハ」の開催など、独自の視点での俳句の魅力を発信し続けている。

平成 23 年に第 2 回北斗賞、平成 25 年に『熊野曼陀羅』で第 36 回俳人協会新人賞、平成 27 年に第 11 回日本詩歌句随筆評論大賞、平成 27 年度和歌山県文化奨励賞を受賞。平成 30 年には俳句結社「蒼海」を立ち上げ、主宰を務める。また、令和 7 年度中学校用教科書『伝え合う言葉 中学国語 3』（教育出版）の俳句の単元を執筆する。著書も多数出版し、俳句界の第一線で活躍している。氏の幅広い活動は、日本の伝統文化である俳句の価値を現代に伝え、次世代へと継承していく上で大きな意義を持っており、氏の俳句分野における顕著な功績は高く評価されるものである。

■現在

- ・俳人協会評議員
- ・日本現代詩歌文学館振興会評議員
- ・日本学校俳句研究会顧問
- ・「いるか句会」主宰
- ・俳句結社「蒼海」主宰
- ・二松學舎大学非常勤講師
- ・池袋コミュニティ・カレッジ講師
- ・角川庭園俳句講座講師

■主な受賞歴

平成 23 年	第 2 回北斗賞
同 25 年	第 36 回俳人協会新人賞
同 27 年	第 11 回日本詩歌句随筆評論大賞
同	平成 27 年度和歌山県文化奨励賞

■主な著書

平成 24 年	『熊野曼陀羅』
同 27 年	『芸人と俳人』 (ピース又吉直樹氏との共著)
令和 6 年	『富士山で俳句教室』
同 7 年	『六四五七五 虫の絵と俳句』

令和7年度和歌山市文化奨励賞

きむら ゆい
木村 友威

住 所 東京都
出 身 地 和歌山市
生 年 昭和59年
作詞家



◎ 業績及び経歴

幼少期から歌やダンスに親しみ、やがて音楽の道を志す。16歳の時に、avex artist academy 第1期生に合格し、音楽業界への第一歩を踏み出す。

平成24年、韓国の人気グループKARAの「ロックオン」で作詞家としてデビュー。以来、ミリオンを達成したKing & Princeの「Life goes on」や「彩り」、NiziUの「Step and a step」、MISAMOの「Catch My Eye」、SMAPの「無我夢中なLIFE」、最近ではHey!Say!JUMPの「Donkey Gongs」など、国内外の著名アーティストに歌詞を提供している。聴き手に寄り添う作詞を心掛けており、歌唱時や聴く際に、歌詞の言葉が心に響くようにと創作に臨んでいる。

また、作詞活動に加え、化粧品のコピーライトなども行っており、広く言葉を扱う分野で活躍している。

その卓越した活動は音楽文化振興に大きく貢献しており、今後も更なる活躍が期待される。

■主な作品（作詞） 【】内は歌手名

【King & Prince】彩り / Life goes on
MAGIC WORD / Misbehave

【SMAP】無我夢中なLIFE

【タッキー&翼】キミシダイ

【Kinki Kids】Want You

【timelesz】革命のDancin' night

【Hey!Say!JUMP】Donkey Gongs

【家入レオ】Whenever / Bicolor

【Nissy】WISH / Mr.Trouble

【すとぷり】タラレバ

【島谷ひとみ】Cinderella / Golden Lady

【NiziU】Baby I' m a star / Step and a step

【ITZY】No Biggie

【WayV】Bandage / What A Good Time

【MISAMO】Catch My Eye

【ELAIZA】etude / Fantasy

令和 7 年度和歌山市文化奨励賞

おおたにししまいほぞんかい 大谷獅子舞保存会

所在地 和歌山市
代表 朝間 義光
創立 平成 23 年

伝統文化（民俗芸能）



◎ 業績及び経歴

本会が主宰として活動が続ける大谷獅子舞は、200 有余年の歴史を持つ金毘羅宮社の奉納舞である。

起源については、大谷の奥山に大蛇が出て、女・子どもがよく呑み込まれるので、それを伏せるため訪れた山伏から神を諫めるための獅子舞の教えを受け、若者たちがそれらを習ったのが始まりとされている。金毘羅宮社が伊久比売神社へ遷座してからは、夏の盆踊りの後によく舞うようになった。

しかし、満州事変から戦争が激化するにつれて、自粛令により盆踊りも廃れ、獅子舞も行われなくなった。戦後の昭和 23 年に再開されたものの次第に行われなくなり、昭和 52 年に再び中断した。

本会は、平成 23 年に「大谷獅子舞保存会」として、一度は途絶えた地域固有の民俗芸能を復活させた。現在、金毘羅宮社、伊久比売神社での奉納や楠見地区のまつり、イベント、施設などで厳粛で勇壮な演舞を披露している。

後継者育成にも積極的に取り組んでおり、練習用の軽量獅子頭を手作りするなど、新規参加者が気軽に体験できる環境づくりにも努めている。さらに、SNS などを活用した情報発信により、民俗芸能の魅力を広く伝える取り組みも進めている。

現在、若い世代の会員が約半数を占めており次世代への文化の継承に大きく貢献している。本市の伝統文化を復活させ、保存・伝承してきた功績は極めて顕著であり、高く評価されるものである。